令和３年度　第３回磐田市魅力産業支援会議　内容及び会議録

１　日　時　　令和３年12月14日（火）　15時00分～17時00分

２　場　所　　磐田市役所本庁舎　大会議室

３　出席者　　磐田市魅力産業支援会議委員　８名
　　事務局（経済観光課、産業政策課）

４　内　容
（１）開会
（２）議題　新磐田市産業振興計画の素案修正について
（３）その他
（４）閉会

５　意見等
議題：新磐田市産業振興計画の素案について（計画の全体構成の修正）
事務局:前回いただいた意見を踏まえ、再度全体を検討し、今回案は事務局として、おおむねの最終案ということで作成。いま一度、内容確認と御意見をいただき今後パブリックコメントなど、策定に向けた手続きに入っていきたい。
：市職員によるワーキング、組織内部で確認検討しながら、目指す将来像に向けて夢や理想の部分も盛り込ませていただいた。
：文字量を極力減らして、見出し、順番であるとか、読む方に伝わりやすい見せ方を意識。
：計画タイトルについて、磐田市産業振興計画から磐田市経済産業振興プランに変更。地域企業が生み出した利益が設備投資、個人消費という形で、再び地域の企業へ還元されていく資金の流れ、経済を意識して今後の産業振興に取り組んでいくという意味で、経済という文言をタイトルに入れた。
：市産業部は、市内企業の経営支援のほかに、地域商品券事業など、市内のお金を循環させるような施策にも取り組んできた。今回計画でも新たな成長分野、投資や消費を市内に呼び込むということを、タイトルにも反映させていきたい。
：計画全体構成について、Ⅱ現状分析と求める方向性について、前回グラフ等で巻頭に記載していたが、巻末にⅥ資料編として整理。グラフ等客観的資料については、巻末に移動。
：将来像及び基本目標の設定というところで、将来像とその説明については変更点なし。基本目標は前回４つだったものを５つに増やした。「新たなビジネスが価値を生む」という基本目標を新たに追加。内容は、前計画案からあった成長分野の展開と企業立地の推進について記載。創業の支援、スタートアップ企業の育成に力を入れていくという考え方のもと、基本目標の一つとして、今回位置づけを見直した。
：基本目標の表現が「価値を生む」ということで抽象的なので、具体的記載に破線をつけた。（例「今を確信し新たな価値を生む」～市内産業の競争力強化と経営革新の促進～）

：体系表レイアウトの関係で数値目標については、各基本目標のページにおいて記載することとした。数値目標自体には変更はなし。
：全体として文章の表現が短く、見出しも強調されているので、見せ方の部分で全体的に見直しがかかっていることをあらかじめ御了承いただければ。
：今回会議後、本最終案に対するパブリックコメントを実施するなど、年度末の計画策定に向けた作業に入っていく予定。

委　員：今日が最終的な確認に近い形かと。基本目標については、それぞれ注釈がつけられてわかりやすくなった。説明の中で、夢や理想の部分とはどのあたりか。

事務局：例えば次世代モビリティーサービスの展開を目指すというところについては、自動運転、電動化を含めて、新たな移動サービスが国でも検討されている。実証ではなく、ビジネスとして成立するようなモデルの確立を市内で目指していきたい。販路開拓では少し表現を踏みこんで磐田ブランドを世界へという形で、スポーツや食品の機能性評価を生かした農産品等をブランディングしたい。オープンイノベーションによる経営革新というところでは、意見交換をして交流できるスペースの市内設置を目指したい等々。文末に目指しますというような表現については、５年後を見据えてこんなことが出来たらいいと考えている。

議題：新磐田市産業振興計画の素案修正について（基本目標）
資料 8.9 ページ　基本目標「今を革新し、新たな価値を生む」
事務局：方向性や数値目標については、大きな変更点はなし。狙う効果として持続性確保から一歩進んだ本市産業の高度化、競争力確保としている。市内企業が競争力を維持し、持続的に成長していくため、先端技術を活用した市内ものづくり企業の革新、成長分野への新たな事業展開、広域の販路開拓等の支援に取り組んでいきたいと考えている。施策名称は、施策２では、「中小企業等の競争力強化支援」としていたところを、「市内中小企業をより強くし、国内外に発信」として、わかりやすく表記。施策３は、「経営基盤安定化支援」としていたところを、「市内企業の持続可能な経営基盤づくりを支援」とし、内容を含めてわかりやすく表現。
施策内容の変更点として、施策１ものづくり産業のイノベーション促進について、事業内容自体に大きな変更点はなし。広域での企業間交流、ビジネスマッチング、オープンイノベーション推進を、施策内容がより適当と思われる市内中小企業向けの施策に移動している。施策２市内中小企業をより強くし、国内外に発信についてでは、先ほど紹介した、磐田ブランドを世界へ広域販路開拓を支援として上位に掲げ、本市産品や技術のブランディング、新たな路開拓支援に取り組んでいきたいと考えている。また引き続き市内既存産業の底上げを図っていく。ＳＤＧｓ推進支援、カーボンニュートラル取組支援についても、施策３市内企業の持続可能な経営基盤づくりを支援というところの上位に掲げ、今後ＳＤＧｓ等への対応が求められることを重要視し支援してきたい。

委　員：例えばロゴであるとか、そういった具体的なものがあるといい。磐田ブランドを推進したのは、卓球や日本一のスポーツのまち。磐田ブランドというのを何

かうまく商品であったり、告知であったりうまくつなげてほしいと思う。

委　員：表現として何々しますというのが多い印象。これから本当に検討を始めるものも多いと思う。できる限りこういうふうにしますみたいなアイデアというか工夫を盛り込まないと、なかなか意見も出づらいというか。こういうことをやってみたらどうですかという意見を聞いて盛り込んでいくというか、何か考え方みたいなものがあれば教えていただければ。

事務局：重要案件、チャレンジ案件がどちらかというと上に来ている。具体性で欠けている部分があるかと思うが、ローリングしていく中で、各項目に向かってどんなことが出来たのか、うまくいったのかいかなかったのか、もしくは出来なかったのかというところを報告させていただき、別にこんなことができるとか、そういった御提言をいただけるようにしていきたいと考えている。

委　員：現計画を５年間やられた中で、成功事例もたくさんある。例えばインターチェンジができ、農業関係だと大手企業を誘致とか。成功事例があって、最終的に重なってそれが本当の磐田ブランドになるということ。同時に、国や県が同じような発信をする。このリンクというか、県と連携出来ているのか、なかなかちょっと見えない。成功例を挙げていきながらそれを持ち上げて、この最終目的のブランド化をしていく、その辺りが見えてくるといい。

事務局：スポーツを活用して産業に結びつけていく、産業活性して市全体を経済的に活性化させていくことがこれから必要と認識している。スポーツのまちということで、大会を誘致したりしているが、その時々の単発的なもので終わってしまっている。産業に結びつけ、継続的に外から人が磐田市にやってきて、お金を落としていただけるような経済循環に至っていない。スポーツ等いろいろなキーワードを使いながら、産業に結びつけていく取り組みを今後していかなくてはいけないと感じている。民間の方からもいろいろ御提案を持ってきてくださっている。企業連携してできることをやっていきたいと考えている。

委　員：やはりブランドは必要、重要と思う。うまく見せられるかというのはそこにプラスα付加価値、例えばふじのくに食セレクション、夢咲牛、プリンセスパプリカもうまくはまった。それを商標として出すとブランド力になる。

委　員：自治体の政策過程は３つ。政治サイクルと予算サイクルと政策サイクル。政治は４年、予算は１年、政策は一定の流れがある。現在計画は来年３月まで残っている。今の計画の成果とか成功例を踏まえたうえで施策推進というのが、実際には必要。まだ委員の任期が１年あるので、どこかで現計画の実態、進捗状況を示してもらうと、つながっていくと思う。

資料 10.11 ページ　基本目標「新たなビジネスが価値を生む」
事務局：施策１、新ビジネスの市内展開の推進として、首都圏等と連携強化による

産業革新と新産業の育成、本市初の成長分野関連産業の創出、オフィス誘致による雇用とにぎわいの創出を主要事業として前回より踏み込んだ内容に変更。首都圏との連携では、磐田首都圏サテライトオフィスを設置してスタートアップ企業や大手企業等との連携を深め、既存産業の革新と新たな産業育成の促進を考えている。本市初の成長分野関連産業の創出では、本市の強みであるスポーツを加え、新たな成長分野の産業数創出に産学官金の連携により取り組んでいく。オフィス誘致では情報通信業を主なターゲットとして、空きテナント活用や豊かな自然環境をＰＲして誘致に取り組んでいきたい。
：施策２、新たな工業用地の確保として、カーボンニュートラル工業用地の整備を目指すことを追加。脱炭素に対応できる工業用地の整備が出来ないか、民間事業者のアイデアやノウハウを活用し、例えば、工業用地内の電力を工業用地内で生まれる、再生可能エネルギーで賄い、ＣＯ２二酸化炭素を削減するような工業用地の整備を目指していきたいと考えている。
：施策３、新たな企業立地の推進。市内企業の工場等の拡張や、市外から新規に工場等設置の際には、用地の紹介や行政手続等で、スピード感のある支援を行っていきたい。用地取得に係る補助金の交付や、税制優遇制度による支援のほか、現在はまとまった工業用地が少ないということもあり、遊休地情報を集約して、企業様へ提供することで新たな立地を推進していきたいと考えている。

委　員：工業用地開発の推進に委員意見が反映されているというのと、その中のカーボンニュートラル工業用地の整備、これが新規ということかと。首都圏サテライトオフィスが目玉として新たに盛り込まれたのかなと思うが、現時点でもう少し何か情報があれば御説明願えればなと思うがいかがか。

事務局：政令市だと東京事務所を置くことが法的に決まっており、県内でいうと浜松市と静岡市が東京事務所を持っている。首都圏であれば、国と話ができるとか、大学発スタートアップ、ベンチャー企業、起業家の皆さんが活動されている拠点が多い。オフィスについても従来型オフィスではなく、サテライトワーキングオフィスで、情報収集や仕事をされているスペースも増えている。そういったところにＩＴ関係のスタートアップ企業であるとか、企業の新規事業の開発を担当するような部署の方々が、情報交換も含めていらっしゃると伺っている。磐田市も外部人材を活用して情報発信し、市内企業と連携できる可能性のある新しい技術やアイデアを持つ企業であるとか、国との連携を深めていく中で、本市産業の革新、新たな分野の産業育成のきっかけになる情報をもたらしてもらうことを考えている。来年度に予算要求をしている段階。予算がつけば今紹介したような活動をやっていきたい。

委　員：キーパーソンも委託するイメージか。

事務局：コーディネーターとして動いていただく想定。

委　員：サテライトオフィスを持つと固定費、人件費がかかる。例えば磐田市の中で、そういう人だったり、リサーチしたり意見をまとめるインフォメーションセン

ターを設置して、うまくつなげていく方法もあるかと。ＳＮＳとかその活用方法を市として専門家１人２人つけるやり方もある。
：本プランを見ていて写真にコメントがついておらずイメージだけなので、コメントを入れたほうがその写真が活きると思う。

資料 12.13 ページ　基本目標「新たなプレーヤーが価値を生む」
事務局：創業起業への支援と新たな産業、スタートアップ企業の成長支援の位置づけを見直して基本目標として、独立させた形となる。基本的な方向性については、創業支援起業支援として創業前から創業後まで一貫したサポートすることで、新しいチャレンジが生まれやすい環境づくりを目指すとともに、本市をフィールドとした新たな成長企業を生み出すことに取り組んでいくものである。
：数値目標については、市内創業がふえることや、起業家を生み出すことによって雇用の創出や地域産業の活性化につながっていくと考えていることから、目標値を創業支援等事業計画に基づく市内創業者５年間の累計数としていることに変更はない。以下、主要施策内容の追加修正を中心に説明。
：施策１、本市での創業起業支援について、起業創業の機運を高めるため、若い世代が市内外の企業と交流する機会を設けることを追加した。また、起業家と、後継者不在の事業者とのマッチングによる新たな創業支援にも取り組んでいきたいと考えている。
：施策２、スタートアップ企業の成長支援について、ここでは、公民連携による地域課題解決に伴う新ビジネスや、市内を実証フィールドとした新産業の創出による地域活性化を目指していく。またこれまでどおり起業者への伴走支援として、経営課題解決への専門家アドバイスや、財政的な支援を引き続き実施していくことで、市内創業者の成長を支援していく。

委　員：スタートアップ企業の支援はどんなイメージか。起業家育成講座を開催とか、ゼロから起業家を目指す人たちを集めて講座や事業計画報告会とか。

事務局：１つは委員がおっしゃったとおり、市内で事業にチャレンジする方がもう少し増えてもいいのではないかという創業支援のところ。先ほど言ったスタートアップ創業のためのアイデア出しのビジネスイベントも、ちょうど12月、磐田でも初開催された。多様な働き方がある中で、創業やチャレンジするような方の支援というのがまず１つ。
：もう１つは、公民連携というキーワード。例えば高齢化、環境、地域交通の問題、市プロパー職員だけで解決出来ない課題も出てきている。市内の企業にとっても自社だけで解決出来ない、例えばＤＸと言ってもどこから手をつけるのがいいのかとか、カーボンニュートラルといっても、どこから実際組立てていけばいいのか、１社のノウハウだけでは取り組めない課題も出てきていると思う。首都圏での拠点のお話もちょっとしたが、市外の成長している環境分野とか、デジタル分野の企業とも情報交換をしながら、そのアイデア、技術を公民連携という形で磐田市の事業にも生かしていきたいし、市内企業の課題解決についても生かしていきたいと考えている。新しい分野で新しいビジネスを起こしていくスタートアップ企業と磐田市が

連携していくところも考えている。
：磐田で公民連携、企業連携が進んでいけば、スタートアップ企業からするとビジネスになるということ。新しい産業が磐田に根づく、例えばオフィスを構えていただくとか、立地して磐田市で仕事をしていこうみたいなところにつながっていけばいい。

委　員：パラレルワーカー、副業とかダブルワークだとか、本業で固定費を稼ぎながら自分の好きなことにチャレンジしたいとか、そういった起業家を目指す卵のための政策もいいかと思う。

委　員：ここに掲げてあるのは、いずれもやってもらいたいなと思っていること。ただ、ほかの市にもあるかと。せっかく磐田市がスポーツのまちで選ばれたので、特化してスポーツ絡みの何か、起業するならほかより１割補助金多いとか、とにかくスポーツを絡めて集めてくれば、いろいろなことができる。もっと有効利用しない手はないのでは。全てすばらしいが、他にもあるという感じがする。

事務局：スポーツ資源をどう活用していくのかは市の課題。スポーツの世界もエンターテインメント化して収益を上げるようなものもあり、大手企業、ベンチャー企業が絡んで展開されているので、情報収集をして連携をつくっていきたいと思っている。

委　員：例えばｅスポーツを駅前の空き地でシニア向けにやるとか、キャベツ刈りスポーツ選手権、これもスポーツだと思う。全部スポーツに絡めようと思えば、面白いことになる。ちょっとしたブランド化とか、みんなの見る目が変わってくる。

資料14.15ページ　基本目標「人材が新たな価値を生む」
事務局：方向性については、市内企業の人材確保や多様な人材の活躍を促進するため、あらゆる世代に就労機会の提供と定着就労を促進し、次代を担う人材確保に取組む。数値目標については、市内中小企業の人材不足を解決することが重要課題であると考えているため、ＵＩＪターン事業において、市内企業へ就職が決定した人数を目標とし、目標値は５年間の累計250人とした。
：施策１、多様な人材の活用と就労を支援について、人材交流の促進をプロフェッショナル人材の意味を含め、高度な人材の交流促進と表現を改めた。また、前回素案で、次代を担う子供たちの勤労感を養うとしていたところを、勤労感だけでなく、市内企業に興味関心を抱かせる取組みを含め、次代を担う子供たちに市内企業の認知度向上を図ると表現を変更した。施策２、ＵＩＪターン就職を促進については、前回素案から、事業内容に大きな変更はない。

委　員：多様な働き方を推進というところで発言させていただきたい。外国人雇用推進だが、現在ＥＵで人権デューデリジェンスが採択されていて、約１年後からドイツメーカーとの取引をする場合は人権侵害をしていないという証明がないと取引が出来ないことになっている。外国人を適正に雇用していることを証明していく

ことが大切になってくる。そういった適正雇用の認定証を磐田市で発行していただきたいなとお願いをしている。浜松市は先月ぐらいからスタート。大手企業でヨーロッパと取引ある企業はもう動いているが、まだまだ日本の中ではあまりメジャーになっていない。外国人雇用を推進するのはいい。それに磐田市内の企業は人権を侵害していないことをしっかりアピールすることが、ＢＣＰだとかＣＳＲ等、企業価値につながっていく。脱炭素と人権はキーワードになってくると思う。

事務局：雇用側目線でいうと、例えば労働局でやっている若者のユースエール認定制度などあるが、外国人雇用についてはそういうものがない。働きたいと思ったときに、認定制度があると後押しになる。企業側に向けたセミナー、外国人の方に対する認定制度の周知は、今後検討していきたい。市内企業の情報、外国人雇用の推進具合、そういった調査をしつつ来年度、外国人の雇用環境の整備についてどのような形で発信していくか検討していきたい。

委　員：次代を担う子供たちについて、中学は市の管轄でも高校になると県。就職が直前に迫っているのは高校生。ここのところにインターンシップをよりやったほうがいいのではないかと思う。
：多様な働き方の「多様」について。例えば、ダブルワークしていいとか、曜日の制限、１日当たり労働時間、年齢、いろいろな構成があると思う。それをより現実的に、働き方を想像して、こんな働き方どうですかというようなことを示していただけるといいなと感じた。

事務局：次代を担う子供たちについて、おっしゃるように小中高生に対して、事業実施している。特に高校生向けは将来Ｕターンにも繋がる１番近い存在と考えているので、学校の授業に企業さんを連れていく交流授業や、逆にバスツアーで企業さんを回っている。人数に制限があるので、全てに情報が行き渡らないというところがある。その中で学校での探求授業というのが、来年度必須になることで、今移行期間であると伺っている。事前学習、職場体験、自己学習という年間通した教材の中に、フィールドスタディの時間があり、企業に行って地域課題や企業の課題を学生も一緒に考えてもらうことをやっている。今市内３校で取組んでおり賛同してくれる企業をこれからも増やしていきたいと考えている。

委　員：14ページ、高度な人材の交流促進のＤＸという単語には注釈が必要では。15ページ、広域連携による就職マッチングについて、広域というと県などかと考えるが、前ページ等で首都圏等との連携強化、首都圏拠点と連携と書いてあるので、国や県、周辺市町と連携してもいいと思う。

委　員：製造業でＢtoＢのものづくりをしていると、どうしてもＢtoＣのものづくりと、温度差がある。ブランド化は必要と感じているが、新しいものに挑戦することと、今までのものを掘り下げてほしいというところの二つを感じている。我々のところは新しい商品開発がなかなか少なく、働いている人目線で人中心に物事を考えている。そういう中で働く場所、環境をよりよく出来たらいいと思う。

：某社会福祉法人さんの障害を持っている人たちも、うちの会社へ来て作業してもらっている。施設の中で織物をつくったりして販売するイベントはこのコロナの影響で２年ほど実現出来ていない。販売の機会がないということで会社へ来て、昼休みに販売会をやった。一生懸命つくっても販売する機会がないという話からこういう話になってきて、非常に感謝された。既存のものを掘り下げるところと、新しいものに挑戦するところをうまく並行できるといいと感じた。
：昨年高校を卒業した社員がいるが、学校へ行って、就職希望の生徒たちの前でお話しする機会をいただいた。企業もなかなか自力では出来ないこともいっぱいあると思うし、でもやはり自分で会社へ来て見てくれたら、多分また印象が変わるのかなと感じた。

委　員：14ページ15ページの内容についてはハローワークも力を入れていかなければいけないと痛感しており、また磐田市と一緒にやっていきたいと思っている。ハローワークの場合でいくと、求人票を各企業さんから出していただいて、求人票の中で、その企業の魅力をお伝えしていかなければいけないところが難しい。企業を訪問しながら、自分の目で見て魅力を探し出すようにしている。

委　員：高校の進路指導室に会社求人資料が何社もある。中身は皆全く一緒。大反省して会社へ帰った。高校生が見たいと思うような会社案内を若手でちょっとつくってみてくれと。その会社案内を見てくれることが本当に増えた。足を運んできてくれることも増えた。実際に入社した社員も、ここ５年ぐらい増えている。世代とか考え方の違いはあるものなので、若者だけでいいとは言わないが、アイデアもいろいろ含めて、若い人たちの発想に頼るのも１案ではないかと思う。

資料16. 17ページ　基本目標「人が集い、新たな価値を生む」
事務局：前回からの変更点は、方向性については、スポーツ資源や豊かな自然、歴史、文化に観光レクリエーション施設を加え、スポーツ観戦や合宿にマイクロツーリズムを加え、それらを市内回遊につなげるという表現にした。
：数値目標は、現状数値を既に新型コロナの影響が出ていた令和２年度227万人から、令和元年度366万人に変更した。
：施策１、スポーツや大会活用については、注目分野であるｅスポーツによるにぎわいづくりを加えた。スポーツを活用した市内回遊策については、自転車やウォーキングを強調するため、マイクロツーリズムから、スポーツツーリズムという表現に変更した。歴史、文化を活用した地域資源の発信については、磐田市の多様な産業を加え、産業観光についても推進していきたいと考えている。
：施策２、観光レクリエーション施設を生かしたまちの活性化については、前回の施策３から施策２に移動し、体験型観光への魅力発信については、事業を３本に分け、リモートワーカー呼び込みや民間アイデア活用を加え、地域資源を活用したマイクロツーリズムについては、市内既存施設でのサイクリストなどの交流イベント開催を加えた。
：施策３、中心市街地の魅力づくりやまちのにぎわいづくりの事業にキッチンカーイベントを加えた。

委　員：前回意見の反映として、数値目標、ｅスポーツの関係、体験型観光施設の魅力発信、観光拠点づくりというところに反映されていると思う。

委　員：テーマとして大切だと思うのが施策２、本市観光の拠点づくりを検討。いろいろなところで祭りやイベントをやっていて、それはどちらかといえば継続的にやっている。そしてとにかく全部分散している。磐田市の観光行政における予算は他市から比べたら多い。でも将来を考えたときに、例えばどこか１か所に何かテーマパークなり何かをつくることによって集中分散していくという考えもあると思う。市長も新しくなられたし市が中心となって、将来志向でそういった例えばバスを20代30台停められて楽しめるような場所、それをどのように創造するか、磐田市観光においてテーマだと思う。
：体験型というのはもう間違いない。神社仏閣テーマパークを見るのはもう昔の話で、今はやはり体験。実際に味わってつくってみるとか、イチゴ積みできるとか、体験が一番マイクロツーリズムの大きなところ。ぜひそのような観点で観光行政を伸ばしてほしいと思う。あとのところはこれで本当に十分だと思う。

委　員：ＳＮＳで映える場所、再発掘を。意外と既存にあるかと。改めて映える場所を設定して発信していくというのがあってもいい。外国人実習生たちが土日曜にインスタでいろんな人に発信している。最近多いのが可睡斎だとかあと法多山。市内では赤松門とか見付学校、豊岡の山にカフェもある。何かそういう再発掘も人を呼び込むというか観光になるかと思う。

委　員：ｅスポーツといってもいろいろある。その中で磐田としてどれか１つ特色が出せればいい。

委　員：ｅスポーツの話題が出たので参考までに情報提供。ｅスポーツ選手は寿命がすごく短い。20代前半でもう引退。目がついていけなくなるらしい。そこでホワイトハッカーという能力を養成する学科、学問が増えているという。

委　員：やはり観光の拠点づくりをしていただけるとありがたい。桶ケ谷沼は磐田市がしっかり守って。守ることが発信になる。ららぽーと方面、このあたりも含めて拠点をつくっていただけるとすごくありがたい。観光と農業はすごく密接。今後、脱炭素ということで、例えば野菜にしても、環境ポイントをつけるのはどうか。何かといえば、ファストフードよりスローフードというイメージ。肥料から農薬から地元で全部できれば。日本が一番、野菜も農薬漬け。我々の磐田市の野菜は環境ポイントをつけているって、みんながどういうこと？と思わせることがすごく引きつけるチャンス。どこかに拠点があって、みんなが寄ってきて、発信のポイントになる。大きな枠で磐田市から発信できることを御検討いただけたら。

委　員：ＰＤＣＡサイクルについて。今回プランをつくって、今後ローリングをしていく中で、その評価をしていかなければいけないと思うが、プランの段階で、新規、既存事業でも何か掘り下げるようなもの、また委員から意見があったものにつ

いては、それが何か残るような形にしていかないと、評価するときになかなか単に出来たで終わってしまい、今後につながっていかない。

委　員：本日会議の意見交換をまとめると、比較的実施計画レベルに近い意見が多かった。来年度以降の予算への反映という形になると思う。
：特に多かった意見は、磐田ブランドの活用、日本一のスポーツのまち、国や県、民間企業等との連携、ふじのくに食セレクションのようなブランド力の強化、スタートアップ企業の支援強化、スポーツとスタートアップ企業の融合、特にスポーツ関連への支援のような意見。
：外国人の適正雇用認定の検討、小中高インターンシップの推進、多様な働き方というのをもう少し具体化してほしいとか、市内の異業種交流への協力支援、企業の魅力アップづくりなど。
：観光の拠点づくり、体験型施設、あとは歴史的資源の再発掘、磐田市に特化したスポーツの継続的な魅力づくり、環境に配慮した産業振興、そのような意見が出た。
：実施計画レベルに近いが、事務局は本日意見を参考にして、計画の最終策定につなげていただきたい。